

広がるニートの就労促進事業

通所・合宿通じ自立へ



仕事に就かず、学校にも通っていない「ニート」を支援する取り組みが県内で広がっている。就業に向けた相談や研修を無料で受けられる「地域若者サポートステーション」(サポステ)が今月、黒部市にオープンした。県内では富山、高岡に続き3カ所目で、複数あるのは北陸では富山だけ。新たな国の補助制度のスタートに伴い、従来の「通所型」に加えて集団生活する「合宿型」に取り組む動きもある。サポートの多様化によって、一人でも多くのニートの社会参加につながることを期待されている。

厚生省の定義に基づくニートは、就労せずに家事も通学もしていない人を指す。半年以上、学校や職場に行かず家に閉じこもり家族以外と親密な関わりを持ってない「ひきこもり」の人も含まれ、全国には約63万人いるという。

社会との関わりをなくしたきっかけは、いじめや人間関係の悩み、家庭環境などさまざま。社会に出る前にひきこもり生活になり、就労経験がない人も多いとみられる。県商工労働部によると、県内のニートは約4000人でここ10年間はほぼ横ばいという。

ニートになると、社会とのつながりを失い豊かな人生を歩むことが難しくなる上、将来的に経済成長や社会保障制度を支える側に回れない恐れもある。厚生省はこうした人たちの職業的自立を支援するため、2006年度から全国でサポステの整備を進めてきた。県内では06年度、富山に「ヤングジョブとやま県若者サポステ」、10年度には高岡に「高岡地域若者サポステ」が開所。12年度末現在、全国には116カ所あり、厚生省は本年度中に160カ所まで増やす計画だ。

■支援は半年から2年

サポステの対象年齢は原則15～39歳。通所型の支援を行うヤングジョブとやまの場合、登録者の約半数が20代という。コーディネーターの宮城啓子さんは「ニートの子どもの将来を心配して親が連れてくるケースが多い」と話す。

サポステでは、キャリアコンサルタントやカウンセラーらが登録者の相談に乗る。それぞれの登録者に応じた目標を定め、あいさつやビジネスマナーを指

ヤングジョブとやままで実施されている調理実習の様子。共同作業を通じ、登録者の性格や適性を見極め、就労支援につなげる＝富山市湊入船町



導したり、企業見学や職場体験の機会を提供したりしながら、進路が決まるまで支援する。平均で半年から2年ほどかかるという。

「働くことに前向きになってきた」。富山市の34歳男性は、1年半のひきこもり生活を脱し、1月からヤングジョブとやまに通っている。大学院時代、研究に行き詰まり、周囲の評価を受けることに恐怖を感じるようになったのがニートになるきっかけだった。就職活動をせず、家にこもる生活が続いた。今は

ヤングジョブであいさつや発声トレーニングを続ける傍ら、仲間と悩みを話し合っている。「将来、何をしたいかはこれから考える。まずは、家以外の居場所ができたことがうれしい」と笑顔を見せる。

■共同作業で性格把握

開所から昨年度末までの利用者はヤングジョブとやまが約1700人、高岡サポステは約500人。このうち、ヤングジョブとやまは約5割、高岡サポステでは約6割が就労したり、職業訓

練校に進んだりしたという。3～4割と言われる全国平均に比べ高く、ヤングジョブとやまの総括コーディネーター、安井優さんは「ボランティアや調理実習といった登録者が共同で作業するカリキュラムを用意している。カウンセリングでは分からない性格面を把握することが、適切なアドバイスにつながっている」と語る。

黒部市で開所した「にいかわ若者サポステ」を運営するのは、NPO法人・教育研究所。教育研究所は、05年から集団生活と就労体験を通じニートの社会復帰を目指す宇奈月自立塾を開講してきた。

総括コーディネーターの牟田光生さんは、収入に余裕がある世帯はニートの子どもをそのまま「保護」してしまうケースが多いと指摘。「社会とつながりが生活が長引くほど、社会復帰は困難になる」と強調する。チームワークの大切さや楽しさを知ることが社会参加への不安を和らげると考える牟田さんは、自立塾のノウハウを生かし、サポステでも合宿型の支援に力を入れる考えだ。

高岡地域若者サポステを運営するNPO法人・北陸青少年自立援助センターは、富山市内で農作業と共同生活を組み合わせた合宿型のニート支援にも取り組んできた。同サポステは従来の通所型に加え、本年度から新たに合宿型支援にも乗り出す。川又直センター長は「それぞれのサポステが特色を出すことで、利用者の選択肢が広がることを望ましい」と話している。

若者でも体力は高齢者並みに一。自宅にこもりきりの生活を続けることは体力低下につながり、心に悪影響を及ぼす可能性が懸念される。社会復帰に欠かせない体力づくりもサポステの役割の一つだ。

黒部市のにいかわ若者サポステを運営するNPO法人・教育研究所の若者自立支援「宇奈月自立塾」では、入塾時にエアロバイクを使った体力テストを行っている。これ

もに、うつ病や精神疾患と似た症状に陥る」と指摘する。長期化するほど、自力で現状を打開しようという気力が起こらなくなるという。

ヤングジョブとやまに通う富山市の30代男性は約1年間にわたって自宅にひきこもった。その間の生活サイクルは昼夜逆転し、起きていた時でもベッドに横になっていることが多かった。「とにかく体力がなくて、近所のコンビニに出掛ける時もふらついた」

ひきこもりで体力低下?

まで入塾した約130人のうち、ニート・ひきこもり歴が1年を超える人は約7割。平均年齢は20代後半だが、体力調査の結果、持久力の指標となる最大酸素摂取量は60代並みに衰えていたという。

県心の健康センター(富山市地川)所長で、睡眠医療認定医の古田壽一さんは「家にこもりきりになると、睡眠リズムが崩れ、十分な栄養を摂らなくなるケースが多い。筋

と振り返る。現在は規則正しい生活を取り入れ、体力は戻りつつあるという。

宇奈月自立塾では山菜採りや海水浴、ソフトボール大会などを採り入れ、体力づくりに力を入れている。総括コーディネーターの牟田光生さんは「体力に自信がつけば、社会で働く自信にもつながる。にいかわ若者サポステでもスポーツを通じた体づくりも後押ししたい」と話している。



宇奈月自立塾が行うソフトボール大会の様子。同塾では利用者の体力向上を目的に、積極的にスポーツを採り入れている。昨年10月、高岡市内

北陸唯一 県内に支援3施設

- ヤングジョブとやま 県若者サポートステーション
 - 【住所】 富山市湊入船町9-1 とやま自遊館2階
 - 【開所時間】 月～金曜：午前9時～午後8時
 - 土曜：午前9時～午後4時
 - 【電話】 076(445)1996
- 高岡地域若者サポートステーション
 - 【住所】 高岡市駅南1-1-18中野ビル1階
 - 【開所時間】 月～土曜：午前10時～午後6時
 - 【電話】 0766(24)4466
- にいかわ若者サポートステーション
 - 【住所】 黒部市新牧野103ファーストビル3階
 - 【開所時間】 月～金曜：午前9時～午後5時
 - 【電話】 0765(57)2446

記者の直言

取材を通して何人かのニートの若者に会った。彼らに共通しているのは、社会に出ることや周囲から評価を下されることに対する強い恐怖感だ。周囲の人と交わり、信頼関係を築くことで「渡る世間に鬼はない」というメッセージを分かちてもらふことこそ、サポステ事業の最大の目標と言えるだろう。

県内のサポステには、従来か

地域や企業への理解必要

ら同様の取り組みを行ってきた多くの専門家が運営に関わっている。経験に裏打ちされたノウハウが、利用者の高い就職率につながっている。

一方、就職してもすぐに出席してしまう人がいるのも事実。長期的視野に立った粘り強いサポートが欠かせない。

社会参加に不安を持つ若者に、一歩を踏み出してもらふためには、職場体験やボランティアと

いった「ウォーミングアップ」の場をどれだけ増やしていけるかが鍵となる。利用者にボランティアを経験させたいと、個人的なつてを頼りにNPOなどに協力を求めるスタッフもいる。

全国に先駆け「14歳の挑戦」を実施した富山には、地域で人を育てる素地がある。企業や団体のさらなる理解が必要だ。(社会部・高嶋昭英)